

龍源寺報

2010. 7. 1

臨濟宗	妙心寺	派樹
住職	松原哲行	樹明樹
副住職	松原哲行	樹明樹
閑栖	松原哲行	樹明樹
正福寺住職	松原哲行	樹明樹
TEL	3451-1853	
FAX	3451-6094	

振込 00160-0-104918

東京都港区三田5丁目9-23 (郵便番号 108-0073)

Email: ryugenji@ryugenji.com

URL: http://www.ryugenji.com

死の谷から戻って

禅の教えるところは、心を一度、坐禅によって、きれいに洗い浄めること。そして、次には座を起って、生れ直した気分、今まで通りに生活するという、二点であります。

坐禅によって、今まで生きてきた心を、ムームーと呼吸しながら、今まで心に記憶された思いをきれいさっぱりと消すことです。

それは、ちょうど、心の黒板に書かれた人生の喜怒哀楽のすべてをふき消すようなことです。怒とか哀は消したいが、人生に体験してきた、喜びや楽しみは残しておきたいでしょう。喜樂は残し、怒哀を消せ、と教えるのは「道徳」。

喜樂すら消して、ちょうど、お母さんのお腹の中にいた頃の、なにかも一切記憶していない心の状況にするのが「禅」です。

お母さんのお腹にいた頃の、あなたが生れ出する前の心の状態にすることを「父母未生以前の本来の面目」と表現します。

坐禅して、そんな状態になれるのか。祖師方は、みんなそういう体験をされました。が、私は経験したことはありません。しかし、このたびの心臓

手術の際に「一切が無い」状況を経験したのです。全身麻酔になり、心臓の血を空にしたのですから、ある意味では死んでいたかも知れません。その状態は、生も死も判らず、喜怒哀楽も感知できません。ただ「ムームー」といった状況でした。坐禅では体験したことのない「無」の世界を、麻酔で体得したのです。

生きながら、生も死も感じない坐禅の究極をです。至道無難禪師が言われた「生きながら死人となりてなりはてて」を、です。なるほど、祖師方は、はんぱじゃない坐禅をされた。

生還して私の生き方が変わりました。生き返っても、普段と変わりなく、陽は朝にのぼり西に沈む。これが、あたり前。それを、日常底とか平常心と云うのです。

あたり前に生きようと思えました。至道無難禪師の「思うがままにすることぞよき」ところです。一代かぎりの人生ゆえ、とことん楽しんで生きてやろうと誓ったのです。平常に生きることが道。平常心是道（これどう）、というではありませんか。

《東南アジア旅行記》

カンボジア遺跡探訪(1)

世界文化遺産の一つとして知られるカンボジアのアンコール・ワットについて少し書いてみよう。

アンコール・ワットはヒンドゥー教三大神の中のヴィシュヌ神に捧げられた寺院であると同時に、その創健者であるスールヤヴァルマン二世を埋葬した墳墓でもある。創建年代は一二世紀前半といわれる。アンコール・ワットはアンコール王朝(クメール王朝)の寺院(ワット)という意味である。このクメール王国は九〇十五世紀までインドシナ半島の大部分とマレー半島の一部までを領土とした大帝国内で、現在のカンボジアのもとになった王国である。このことはアンコール・ワットが現在のカンボジア国旗の中央に同国の象徴として描かれていることから知ることができる。このクメール建築の大傑作である巨大寺院は実際のところ、今から一五〇年前までその存在を知られていなかったという。もちろん、現地の人たちは知っていたことだが、フランス人学者アンリ・ムオの再発見まで、ジャングルの奥深くに眠り続けていたのであ

る。このアジアの至宝はヒンドゥー教のシンボルと同時にクメール王朝のシンボルでもあった。日本宗教史でいえば、奈良時代の東大寺に相当するものであろうか。しかし、アンコール・ワットが南北約一三〇〇m、東西約一五〇〇mの堀で囲まれ、参道が約六〇〇mという巨大な宗教パビリオンであることを考えると、ただそのスケールの違いに驚いてしまふ。

アンコール・ワットはその独自の世界観と宇宙観を持つ。このことを三つの点から話してみよう。もちろん、アンコール・ワットに秘められた不思議と魅力はまだまだたくさんある。一つ目は、アンコール・ワットの建築構造に見られる。寺院中心部はピラミッド型に順次高くなっていく第一、第二、第三の三重の回廊と、その第一と第二回廊をつなぐ十字回廊、その十字回廊を挟んで南北に位置する二組の経蔵、それに中央祠堂からなる。最上部の第三回廊の四隅には尖塔(脇祠堂)があり、中央には最大でかつ高さ地上六五mの中央祠堂の尖塔が立っている。(二〇〇九年一二月時点では修復のため第三回廊のある最上階には上れなかった。)この計五基の祠堂

で囲まれた最上階は一番重要な空間であり、実際この中央祠堂には完成当時はヴィシュヌ神が祀られていた。(ガイドさんによると、現在は後世に持ち込まれた仏像が安置されているという。)この構造は宗教遺跡としての寺院アンコール・ワットが信仰の対象物であることを教えてくれる。

しかし、この構造はアンコール・ワットが信仰の対象物である以上に、独自の世界観・宇宙観をも示してくれているのだ。中央祠堂はヴィシュヌ神が降臨し、王と神が一体化する聖なる場所と考えられていた。いいかえれば、中央祠堂は王による天界・宇宙といった神界との交信場所であったのである。この聖なる場所は、ルーマニア人宗教学者ミルチア・エリアーデ(一九〇七―一九八六)がいうところの「アクシス・ムンディ」、つまり地上界と天上界をつなぐ「世界軸」であろう。中央祠堂は地上の中心であると同時に天界、宇宙の中心を象徴していたのである。この中央祠堂が神話世界の中心である須弥山を象徴しているということは、結局のところ同じことを言っている。このことはアンコール・ワットの建築構造が王と神が一体化するデーヴ

ア・ラジャ思想に基づいているだけでなく、その独自の宇宙観を建築を通して「曼荼羅」空間として示している。アンコール・ワット

Ⅱ曼荼羅。「造形曼荼羅」とでも呼ぼうか。

アンコール・ワットをして示された王権が十分に神格化されたのはいうまでもない。

(つづく)

副住職・ロサンゼルス・バークレー校

教授 (Ph.D) 松原正樹

▼うつつとうしい梅雨のシーズンで

柳 緑 す。皆様お変わり無くお過ごしのことと拝察致しております。私達

花 紅 も元気で過ごさせてもらっています

す▼早いもので、六月には両親の

一周忌をとめることになりました。これはお寺方を中心に営み、お檀家様方には、七月

十日の施餓鬼会の際に法要を執り行う予定であります▼ご心配をおかけしましたが、術

後の経過もよいとのこと、医者への許しを得て、もう全国各地の講演に駆け回っています

入院中から、医師達に言われたとおり、入院前よりも忙しくなりそうですが、それも行か

ず、心臓をいたわりながらの日々を過ごしています▼軽井沢の日月庵坐禅堂には、今年も

社員研修が入り、信樹、行樹が担当し、若いエネルギーを燃やしてくれ、またカルチャーセンターで仏教を講義するなど、力を付けてきました▼バークレー校で教壇に立ってがんばっている覚樹も祖父父母の一周忌には帰国し、七、八月は再来して龍源寺や仏母寺の法要などに加担してくれることになっています▼鹿野山の仏母寺にもようやく私自身がなれてきました。七十年の生涯に、龍源寺以外には生活したことが無く、仏母寺に住むことにも違和感がありましたが、周囲の理解と協力により、ようやく一年経って我が家のようになりました▼仏母寺へはマイカーを運転してゆ

くのですが、首都高速、アクアライン、館山道などを利用し、一時間強かかります。なにせ若くはないので、事故を起こさないようにつとめています。最近では高速バスを利用し、安全第一にしています。ご安心下さい▼住んでみて、千葉と言うところは物価が東京都より安いし、魚は美味しい、野菜は新鮮。ただ、常住するには、東京生まれには、不便なことが多く、龍源寺中心に生活しております。地方講演、出版などの仕事はやはり東京でないと駄目ですね▼五月に、大和出版から新著が

出ます。今回の心臓手術で感じた人生観などを中心に筆を勤めたものです▼私がこの十年前くらいから進めてきた若手布教師の育成も軌道に乗り始めました。社会に通じる法話を期待していた若い住職達が大きく育ち、今年から、名古屋、浜松、静岡、青山、新宿のカルチャーセンターに御願いで講座を開いています▼私自身は、自分の講義にある程度の自負がありました。若く僧たちの話を聞いて、自分には初々しさ、謙虚さが失せていたことを痛感させられました。人を育てることは、自分を育てることなんです▼住職から閑栖になって隠居したわけではありません。今までと同じく布教専一に生きています。講演を頼まれたら何処にでも行きますし、今秋に北京大学の教授達に仏教・禅を講義するために飛びます▼青島でも講演の話がありますから、まだまだ若い気持ちで踏ん張っていますよ。月一の仏教講座も目白押し。青山会、NHK、新宿朝日カルチャー、名古屋中日文化教室、淑徳大学公開講座などです▼鹿野山の仏母寺、鹿野山禅研修所でも話しています。皆様もお時間があれば、軽井沢、鹿野山、その他の会場において下さいませ。(哲)